

西原の方言  
— 鳴き声について —

今回は擬声語についてお話ししてみたいと思います。

擬声語というのは、音や声をあらわすことばです。たとえばにわたりの鳴き声はどんなふうなことばにあらわすのでしょうか？

日本では「コケッココー」というのが一般的といえるでしょうが、世界では国によって違いがみられます。(クックドゥーなど)。沖縄県内においても、にわたりの鳴き声には地域差がみられるようです。

ここで注意したいのは、擬声語というのにわたりの鳴

き声のものまねではありません。地域または集落で一般的に、普通に使われている(品詞性のある)単語として発音されるのをさしています。

それでは、町内の各集落ではにわとり(方言:トウイ)の鳴き声はどんなふうなことばであらわされているのでしょうか。これまで調査した集落を例にあげてみましょう(カタクナのみを表記なのでちよつとわかりにくいかもしれませんがね)。

嘉手苅では「ケツケレーケ(オス)」とか「コッコロー」となり、棚原では「コッコローコ」、安室では「コックローコ」や「コッコローウー」

というふうになつていきます。また、メスが卵を産むときの鳴き声というのも別にあつて、嘉手苅・幸地では「コテーコッコ」、安室では「コテーコッコ」、棚原では「コテーコッコイ」と各集落ともほ

ほ似ていますが、アクセント(音のあがりさがり)も含めてみると、微妙に異なるようです。

さらにじゃこうねずみ(方言:ピーチャー)の鳴き声を見てみると「チンチン」と鳴くときにはいいことがあつたりお金が入ってくるという、「ピリピリピリ」と鳴くと不幸や悪いことを知らせているのだという、鳴き声にまつわるお話も聞きました(棚原・我謝など)。

このほか方言調査では牛や山羊・豚・馬などできるだけいろんな動物(方言:イチムシ)の鳴き声も収集するよう心がけています。

先月号の「なめくじ」もそうでしたが、動物の名前や鳴き声は各集落で大なり小なりの相違がみられます。またそれは年代などによっても差がでけると考えられます。

いま行っている方言調査ですべてをひろい出すことは難しいかもしれませんが、少しづつでも記録していくことに意義があるのでないでしょうか。

コッコローコ  
kokkoro=ko

にわたりの鳴き声  
と各部分の呼び方



トイ  
(tui)

羽  
(hani)

つめ  
(tjimi)

つめ  
(tjirudzi)